

令和元年6月14日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03357

研究課題名（和文）戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究

研究課題名（英文）Research of the Transnational History of Postwar Japanese Religious Peace Movements

研究代表者

大谷 栄一（OTANI, Eiichi）

佛教大学・社会学部・教授

研究者番号：70385962

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では戦後の仏教者、キリスト者、新宗教の平和運動、戦後日本の仏教界と靖国神社問題、日中間の戦後処理問題、戦後日韓関係における宗教のあり方、宗教者平和運動のトランスナショナル・ネットワークについて調査・研究を行い、戦後日本の宗教者平和運動の重層的な諸活動の実態と国内外のネットワークの存在を明らかにした。また、日蓮宗現代宗教研究所所蔵の中濃教篤資料を整理し、目録を完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後日本の仏教界、キリスト教界、新宗教界の平和運動の歴史と実態について明らかにするとともに、トランスナショナルな視点から、戦後日本と中国、韓国の宗教者・宗教界の関係やネットワークを明らかにしたことで、当該研究領域の大幅な更新を図った点に、本研究の学術的意義がある。また、戦後日本の宗教者平和運動に関する未公開の一次資料を整理したことは、今後の研究の進展に資することになるであろう。

研究成果の概要（英文）：We researched the postwar peace movements of Japanese Buddhists, Christians, and new religious movements; Japanese Buddhist responses to the Yasukuni Shrine controversies after World War II; the relationship of religion to postwar Japan-China settlements and Japan-Korea relations; and the transnational network of religious peace movements. Our research revealed many facets of the varied activities of postwar Japanese religious peace movements and outlined their domestic and transnational networks. Furthermore, we have organized and cataloged the documents of NAKANO Kyotoku held at the Nichiren Buddhist Modern Religion Research Center (Nichirenshu Gendai Shukyo Kenkyujo).

研究分野：宗教社会学

キーワード：宗教者平和運動 靖国神社問題 宗教間協力 慰霊・追悼 靖国神社問題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

戦後日本の宗教者による平和運動に関する研究は1980年代から2000年代にかけて行われてきたが、研究の蓄積は不十分であり、当該研究は開拓の余地のある領域だった。

宗教者平和運動は、宗教者や宗教団体による社会活動・政治活動の一環として捉えることができる。1990年代以降の公共宗教(Public Religion)研究、宗教的利他主義研究、ポスト世俗主義論等、公共空間における宗教の役割を問い直す研究動向が国内外で見られ、本研究はこうした研究動向を発展させることを意図した。また、日本と東アジアの宗教者の関係性やネットワーク形成というトランスナショナルな視点を導入することで、戦後日本の公共空間における宗教者平和運動の社会的・政治的役割を問い直す研究として実施することをめざした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次世界大戦後の日本の宗教者による平和運動(宗教者平和運動)の歴史をトランスナショナルな視点から実証的に解明することである。そのために、第1に、戦後日本の宗教者平和運動に関する未公開の一次資料を探索・整理するとともに、第2に、戦後日本の宗教者平和運動の重層的な諸活動の実態と国内外のネットワークの存在を資料調査、インタビュー調査、現地調査、参与観察等の調査方法によって明らかにした。

3. 研究の方法

本研究は、戦後日本の宗教者平和運動の歴史を実証的に解明するために、[1]戦後日本の宗教者平和運動に関する一次資料の探索・整理と、[2]戦後日本の宗教者平和運動の重層的な諸活動の実態と国内外のネットワークの存在の実証的な調査・研究を主たる研究の方法とした。

[1]については、日蓮宗現代宗教研究所所蔵の中濃教篤資料を整理し、資料目録を完成させた。[2]については、本研究の研究代表者、研究分担者、研究協力者が各自の事例研究に取り組み、資料調査、インタビュー調査、現地調査、参与観察等の調査方法による多面的なアプローチによって、数多くの成果をもたらした。

4. 研究成果

本研究では、10名の研究者(研究代表者、研究分担者6名、研究協力者3名)9名のワーキンググループによって共同研究を実施した結果、計51本の雑誌論文、計30冊の図書を公刊し、計55件の学会発表を行った。学会発表については日本宗教学会でパネルを2017、2018年に行い、宗教者や一般向けのシンポジウムも2018、2019年に実施した。2017年には台湾で、2018年には韓国で国際シンポジウムを行った。また、中濃教篤資料(計4,486点の資料、5,753点の書籍)のデータ入力を終え、目録を作成したことも大きな成果である。

最終年度(2018年度)には『戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(平成28~30年度JSPS科研費成果報告書)』を作成し、本研究のまとめを行った。

以下、研究代表者と研究分担者6名それぞれの成果を記す。

大谷栄一は、本研究の研究課題のなかで、戦前から戦後の仏教者を中心とした宗教者平和運動の実態とネットワークに関する調査・研究を担当した。戦前の新興仏教青年同盟、戦後の仏教社会主義同盟(仏教社会同盟)、日本平和推進国民会議、中国人俘虜殉難者遺骨送還運動、日蓮宗の世界立正平和運動等について分析を行った結果、戦前と戦後の宗教者平和運動には連続性があること、宗教団体と政治団体、労働組合、社会運動団体の協働は戦前から見られるが、戦後の動員力は戦前を凌駕していたこと、戦後日本の宗教者平和運動は日本の共産党、社会党のみならず、中国共産党との関係の中で実践されたこと、中国人俘虜殉難者遺骨送還運動は、日本の仏教徒にとって、戦争責任に対する応答であることなどが明らかになった。

一色哲は、本研究の研究課題のなかで、戦後日本におけるキリスト者の平和運動のフィールドワークによる実証的調査と研究を担当した。日本において少数派に過ぎないキリスト者が平和運動で一定の存在感を示すことができたのは、キリスト教会が他宗教に先がけて戦争責任の告白を公にしたことと、他宗教や政党、労組等の諸団体、市民運動(「べ平連」等)など非キリスト教の個人・団体と連携してきたこと、この2点であることを、本研究で確認した。

また、一色は、キリスト者の平和運動をグローバルな視点とローカルな活動に着目して、北海道キリスト者平和の会についての調査を行った。また、その道外のネットワーク形成を実証するため山形県鶴岡市で調査を行った。また、広島県呉市でも、呉キリスト者平和の会の活動について調査をし、軍事都市における平和運動の概観を行った。その調査で、運動の担い手たちが山口県の岩国や沖縄等の運動とつながっていることを確認した。

近藤俊太郎は、本研究の研究課題のなかで、「戦後日本の仏教界と靖国神社問題」を担当した。このテーマを本研究課題との関連から捉えるとき、とりわけ重要になるのが反靖国運動である。そこで、仏教者による反靖国運動に照準を合わせ、上記のテーマに取り組み、その主たる担い手であった真宗関係者による反靖国運動の系譜をあきらかにした。

反靖国運動は、1960年代後半の靖国神社法案をめぐる論争では、国家護持をめぐる法的次元に論点を集中し、法案阻止のための論陣を張った。それに対し、1970年代になると真宗者による反靖国運動は、教団改革運動との二重性のなかで進められ、1980年代には真宗独自の遺族会結成へと至ったほか、裁判闘争にも展開した。こうした動向から、1974年に法案が廃案となって以降、靖国問題の問い方が、個々の主体的実存の次元により接近していったことがわかった。

坂井田夕起子、本研究の研究課題のなかで、「日中間の戦後処理問題」および「宗教者平和運動のトランスナショナルなネットワーク」部分を担当した。概要は以下のとおりである。

戦後の日中友好（国交回復）運動は、サンフランシスコ講和会議をめぐる平和運動に淵源を有し、1950年に成立した日中友好協会との関係が大きかった。また、在華邦人の帰国問題や戦時中の中国人強制連行犠牲者の慰霊といった戦後処理をめぐり、日本政府に代わって、民間団体が対応する必要から、仏教者にも活躍の場が与えられた。中国側も、当時の外交方針によって日本との交流を積極的に推進した。仏教者たちは有志で日中仏教交流懇談会を設立し、全日本仏教会も訪中団を組織した。

1950年末、中国側がアメリカとの対抗姿勢を強めると、日中友好運動は政治色を強め、左傾化した。そして、文化大革命の勃発を契機に、日本国内の共産党と社会党の対立に巻き込まれ、日中仏教交流懇談会は分裂し、活動は頓挫した。1972年、日本と中国は国交回復を宣言したが、仏教者たちは分裂状態のまま中国との交流を開始したことがあきらかとなった。

塚田穂高は、本研究の研究課題のなかで、特に戦後日本の新宗教における平和運動について担当した。具体的事例として、「松緑神道大和山」教団に着目した。同教団は新日本宗教団体連合会（新宗連）の加盟団体であるとともに、初代教主・田澤康三郎のリーダーシップにより、小規模だが重要な位置を占めるものである。2016年8月と2017年9月に、教団調査を行った。

2018年度には、2017年のノーベル平和賞を受賞した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」と日本宗教との関わりについて調査を進めた。特に、創価学会インタナショナル（SGI）と世界宗教者平和会議（WCRP）について、インタビュー調査と文献収集を重ねた。

これらの事例研究を重ねるなかで、戦後日本の新宗教における平和運動、特にそのトランスナショナルな特性を、類型論的にとらえる発想が生まれた。

以上のような事例研究と類型論について、学会報告と論文執筆を重ね、成果を発信した。

永岡崇は、本研究の研究課題のなかで、戦後日本の新宗教による平和運動のケーススタディとして、主として大本の人類愛善運動の調査を担当した。1950年代から60年代前半の大本は、世界連邦運動や原水爆禁止運動に熱心に取り組んだことで知られる。先行研究では、彼らの運動は戦前における出口王仁三郎の思想・実践を引き継いだものと位置づけているが、戦後東アジアの複雑な政治力学のなかで、信徒たちが王仁三郎の教えをいかに読みなおし、展開させていったのかを探ることこそが重要である。

このような観点から、運動の中心を担った出口伊佐男や出口榮二の思想を分析するとともに、機関紙／誌を手がかりとして信徒たちの実践のありようを探り、同時代的なコンテクストのなかに位置づけることを試みた。その結果、冷戦下の複雑な国際情勢に翻弄され、ぶつかり合いながらも社会におけるみずからの役割を問う宗教者たちの苦闘の軌跡を浮かび上がらせることができた。

山本浄邦は、本研究の研究課題のなかで、戦後日韓関係における宗教のありようにつき、以下の2点についての研究を担当した。

第一に、日本の主要宗教教団の戦後50年期における戦争責任告白や表白、声明などにつき、そこに現れた朝鮮植民地支配認識についての分析を進め、その結果を当科研の研究会などで報告した。第二には、韓国釜山市内にあるアミ洞に植民地時代に造成された日本人共同墓地を巡る近現代史を背景として、同墓地を媒介として新たに生まれつつある日韓のコミュニケーションについてフィールドワークやインタビュー、文献調査などを行った。その成果は当科研が共催した韓国ソウルでの日韓共同学会（2018年11月）で報告するとともに、当科研の報告書に論文としてまとめたものを寄稿した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計51件)

大谷栄一、(再)起動する戦後日本の宗教者平和運動、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(平成28~30年度JSPS科研費成果報告書) 査読無、2019、7-28

一色哲、日本キリスト教界の戦争協力と戦後平和運動の概要 日本キリスト教団の動向を中心として、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(平成28~30年度JSPS科研費成果報告書) 査読無、2019、29-36

一色哲、戦後日本におけるキリスト者による平和運動と特質と可能性 宗教的マイノリティによる地域ネットワークの形成の視座から、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(平成28~30年度JSPS科研費成果報告書) 査読無、2019、37-50

近藤俊太郎、近代真宗史への入射角 宗教的立場と社会的立場の二元論とその超克、教化研究、査読無、第163号、2019、28-48

近藤俊太郎、戦後日本における真宗者の反靖国運動、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(平成28~30年度JSPS科研費成果報告書) 査読無、2019、79-95

塚田穂高、日本の新宗教運動における平和活動の位置づけとその典型的把握、戦後日本の

宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究（平成 28～30 年度 JSPS 科研費成果報告書） 査読無、2019、97-108

塚田穂高、松緑神道大和山の平和活動の展開 ローカル教団からトランスナショナルな連合体までの架橋性、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究（平成 28～30 年度 JSPS 科研費成果報告書） 査読無、2019、109-120

永岡崇、戦後大本の平和運動をめぐる覚え書、佛教学部総合研究所紀要、査読無、第 26 号、2019、19-26

永岡崇、世界連邦主義と大本 人類愛善-平和運動の軌跡（上）、戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究（平成 28～30 年度 JSPS 科研費成果報告書） 査読無、2019、121-133

山本浄邦、日本における K-pop 受容の歴史的背景に関する一考察：1980 年代以降東アジアの変化を中心として、コリア研究（立命館大学コリア研究センター） 査読無、2019、65-77

大谷栄一、仏教が（日本の）寺院から出て行く 近代仏教研究の射程、現代思想、査読無、2018 年 10 月臨時増刊号、2018、59-72

一色哲、日本キリスト教界の戦争協力と戦後平和運動の概要 東アジア地域との関連で、近現代東 ASIA 宗教と平和、査読無、2018

塚田穂高、日本新宗教のトランスナショナルな平和運動の諸相、近現代東 ASIA 宗教と平和、査読無、2018、59-69

近藤俊太郎、戦後日本の仏教界と靖国神社問題、宗教研究、査読無、91(別冊)、2018、132-133

坂井田夕起子、花岡事件と文化大革命 日中友好協会の運動との関わりを中心に、中国 21、査読無、vol.48、2018、pp.95-118

坂井田夕起子、真宗大谷派の厦門開教 開教使神田恵雲と敬仏会を中心に、台湾の日本仏教 布教・交流・近代化、査読無、2018、37-50

坂井田夕起子、中华人民共和国の対外工作与佛教（1952-1966）、国際关系史工作坊、査読無、第 1 期、2017、59-79

塚田穂高、戦後日本の新宗教運動における平和運動、2017 近代東アジア宗教的變遷與發展國際學術研討會 論文集、査読無、2017、135-149

永岡崇、近代日本と民衆宗教という参照系 安丸良夫における「論理」と「活力」、日本史研究、査読無、第 663 号、2017、42-62

〔学会発表〕(計 55 件)

近藤俊太郎、「戦後日本における仏教者の反靖国運動」、佛教学部社会学部公開シンポジウム「戦後日本の宗教者平和運動を捉え直す」、2019 年 2 月 23 日、佛教学部（京都）

坂井田夕起子、「戦後の日中友好運動に参加した仏教者たち」、佛教学部社会学部公開シンポジウム「戦後日本の宗教者平和運動を捉え直す」、2019 年 2 月 23 日、佛教学部（京都）

永岡崇、「世界連邦の理念と冷戦体制 新宗教・大本の経験から」、佛教学部社会学部主催 公開シンポジウム「戦後日本の宗教者平和運動を捉え直す」、2019 年 2 月 23 日、佛教学部（京都）

坂井田夕起子「中濃教篤と戦後の日中友好運動 日中仏教交流懇談会を中心に」、第 28 回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナー「戦後日本における宗教者の平和運動 中濃教篤師の業績を中心として」、2019 年 1 月 31 日、日蓮宗現代宗教研究所（東京）

永岡崇、「新宗教と平和運動 大本・人類愛善会の活動を事例に」、平成三十年度第二十八回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナー（公開講座）2019 年 1 月 31 日、日蓮宗現代宗教研究所（東京）

一色哲、「日本キリスト教界の戦争協力と戦後平和運動の概要 東アジア地域との関連で」、(シンポジウム)近現代東アジアにおける宗教と平和、2018 年 11 月 26 日、圓光大学校隠徳文化院(韓国、ソウル)

近藤俊太郎、「靖国問題と日本仏教」、韓日国際学術大会「近現代東アジアにおける宗教と平和」、2018 年 11 月 26 日、圓光大学校隠徳文化院(韓国、ソウル)

山本浄邦、「釜山・峨嵋(アミ)洞の旧日本人墓地を媒介とした新たな日韓コミュニケーションの可能性」、圓光大学校 HK+ 事業団 2 次年度第 2 回韓日共同学術大会「近現代東アジアの宗教と平和」、2018 年 11 月 26 日、圓光大学校隠徳文化院(韓国、ソウル)

塚田穂高、「日本新宗教のトランスナショナルな平和運動の諸相」、シンポジウム「近現代東アジアにおける宗教と平和」、2018 年 11 月 26 日、圓光大学校隠徳文化院(韓国、ソウル)

一色哲、「沖縄・宮古・八重山における米軍による軍事占領と教会 1940 年代後半における地域社会とキリスト教」、2018 年 9 月 18 日、沖縄キリスト教学院大シャローム会館(沖縄)

大谷栄一、「近代東アジア世界における仏教改革運動と平和」、韓日国際学術大会「近現代東アジアにおける宗教と平和」、2018 年 9 月 9 日、圓光大学校隠徳文化院(韓国、ソウル)

- 坂井田夕起子、「戦後の日中友好運動と中濃教篤 日中仏教交流懇談会を中心に」、日本宗教学会第77回学術大会（パネル報告）2018年9月9日、大谷大学（京都）
- 塚田穂高、「核廃絶と日本宗教 ICANとSGI・WCPRの関係を中心に」、日本宗教学会第77回学術大会パネル「戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー」、2018年9月9日、大谷大学（京都）
- 永岡崇、「世界連邦主義と大本 前進と捻じれの平和運動」、日本宗教学会第77回学術大会テーマパネル「戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー」、2018年9月9日、大谷大学（京都）
- 坂井田夕起子、「戦後日本宗教者の平和運動と中国・台湾」、第一屆近代東亞宗教的變遷與發展學術研討會、2017年10月28日、佛光大学、（台湾・宜蘭）
- 大谷栄一、「日本における宗教者平和運動の戦前と戦後」国際シンポジウム「近代東亞宗教的變遷與發展學術研討會」、2017年10月28日、佛光大學（台湾、宜蘭）
- 塚田穂高、「戦後日本の新宗教運動における平和運動」、2017近代東亞宗教的變遷與發展國際學術研討會、2017年10月28日、佛光大学（台湾、宜蘭）
- 近藤俊太郎、「戦後日本の仏教界と靖国神社問題」、日本宗教学会第76回学術大会パネル「戦後日本の宗教者平和運動研究を更新する」、2017年9月17日、東京大学（東京）
- 大谷栄一、「戦後日本の宗教者平和運動と東アジアの関わり」、日本宗教学会第76回学術大会パネル「戦後日本の宗教者平和運動研究を更新する」、2017年9月17日、東京大学（東京）
- 塚田穂高、「戦後日本の新宗教平和運動における思想と実践」、日本宗教学会第76回学術大会パネル「戦後日本の宗教者平和運動研究を更新する」、2017年9月17日、東京大学（東京）
- 21 一色哲、「戦争を肯定するキリスト教、反対するキリスト教 米軍占領下沖縄における抑圧と抵抗の構造」、2016年9月9日、北星学園大学（札幌）
- 22 山本浄邦、「『近代仏教史』研究における『近代』の再検討：東アジア交流史の観点から」、京都コリア学コンソーシアム第34回研究会、2016年7月1日、同志社大学（京都）
- 23 山本浄邦、「Cultural Exchanges between Korea and Japan -Another Way to Meet Us-」（英語）The 6th Forum about "Re-evaluating the ROK -Japan Relationship"、2016年6月19日、Seoul Scholars International（韓国、ソウル）

〔図書〕（計30件）

- 山本浄邦 他、思文閣出版、植民地帝国日本における知と権力、2019、980
- 山本浄邦 他、韓国学中央研究院出版部（韓国）、明洞 ストリートの文化史、2019、197
- 大谷栄一 他、慶應義塾大学出版会、日本宗教史のキーワード 近代主義を超えて、2018、450
- 一色 哲、新教出版社、南島キリスト教史入門 奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と福音主義信仰の交流と越境、2018、237
- 近藤俊太郎他、慶應義塾大学出版会、日本宗教史のキーワード 近代主義を超えて、2018、450
- 坂井田夕起子 他、真宗大谷派浄園寺所蔵藤井静宣関連資料、2018、154、
- 坂井田夕起子 他、台湾の日本仏教 布教・交流・近代化、勉誠出版、2018、241
- 永岡崇 他、日本宗教史のキーワード 近代主義を超えて、慶應義塾大学出版会、2018、450
- 山本浄邦 他、ポゴ社（韓国）、開化期・日帝強占期（1876～1945）在朝日本人情報事典、2018、681
- 塚田穂高 他、慶應義塾大学出版会、日本宗教史のキーワード 近代主義を超えて、2018、450
- 塚田穂高 他、岩波書店、いま宗教に向きあう2 隠される宗教、顕れる宗教 国内編、2018、224
- 永岡崇 他、思文閣出版、学問をしばるもの、2017、384
- 永岡崇 他、勉誠出版、近代日本の偽史言説 歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー、2017、392
- 塚田穂高 他、筑摩書房、徹底検証 日本の右傾化、2017、400
- 大谷栄一 他、法蔵館、近代仏教スタディーズ 仏教からみたもうひとつの近代、2016、294
- 近藤俊太郎他、法蔵館、近代仏教スタディーズ 仏教からみたもうひとつの近代、2016、294
- 坂井田夕起子 他、交錯する台湾認識、勉誠出版、2016、265
- 近藤俊太郎他、法蔵館、戦後歴史学と日本仏教、2016、381

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：一色哲

ローマ字氏名：(ISSHIKI Aki)

所属研究機関名：帝京科学大学

部局名：医療科学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：70299056

研究分担者氏名：近藤俊太郎

ローマ字氏名：(KONDO Shuntaro)

所属研究機関名：龍谷大学世界仏教文化研究センター

部局名：

職名：研究員

研究者番号(8桁)：00649030

研究分担者氏名：坂井田夕起子

ローマ字氏名：(SAKAIDA Yukiko)

所属研究機関名：) 桃山学院大学

部局名：経済学部

職名：非常勤講師

研究者番号(8桁)：50728178

研究分担者氏名：塚田穂高

ローマ字氏名：(TSUKADA Hotaka)

所属研究機関名：上越教育大学

部局名：大学院 学校教育研究科

職名：助教

研究者番号(8桁)：40585395

研究分担者氏名：永岡崇

ローマ字氏名：(NAGAOKA Takashi)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：大学院 文学研究科

職名：招へい研究員

研究者番号(8桁)：30725297

研究分担者氏名：山本 浄邦

ローマ字氏名：(YAMAMOTO Joho)

所属研究機関名：佛教大学

部局名：総合研究所

職名：特別研究員

研究者番号(8桁)：80788307

(2)研究協力者

研究協力者氏名：川口葉子

ローマ字氏名：(KAWAGUCHI Yoko)

研究協力者氏名：戸田教敞

ローマ字氏名：(TODA Kyosho)

研究協力者氏名：福井敬

ローマ字氏名：(FUKUI Takashi)